

人物じんぶつのようすや気もちに気をつけて読もう

「名前を見てちょうだい」 あまん きみこ作

めあて

えっちゃんがお母さんからぼうしをもらう場めの音読のくふうを考えよう。

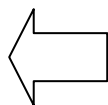
○気もちが分かるころ



会話「」  
人物のうごき  
ぼうしのようす

○どんな ぼうし？

- ・赤い すてきな ぼうし
- ・リボンが ついている ぼうし
- ・青い 糸で 名前が ししゅうしてある ぼうし
- ・お母さんに もらった ぼうし



読み

- ・うれしい読み
- ・にっこり読み
- ・お母さん大すき読み

えっちゃんがかぶ  
ぼうしを挿絵  
っている

う、め、だ、え、つ、こ。うふつ。ありがとう。

- ・赤い色がすてきだから気に入ったよ。
- ・名前をししゅうしてもらったからうれしいな。
- ・お母さんにもらったぼうしだからだいじにするね。

【4 / 15 時間目 指導略案】 使用するワークシート④  
活動のねらい

一、二の場面の会話文の音読の仕方を話し合うことで、えっちゃんの様子や気持ちを想像することができるようにする。

1 本時のめあてを確認する。

2 えっちゃんがお母さんからぼうしをもらう場面（一、二の場面）を音読し、会話文の音読の工夫について自分で考える。

【発問】「う、め、だ、え、つ、こ。うふつ。ありがとう。」はどのように読んだらよいでしょう。

※ 教材文は拡大して、移動黒板などに貼っておくとよいでしょう。または、あらかじめ根拠となる叙述を予想して、短冊に書いて用いることもできます。

○ えっちゃんの行動や帽子の様子から、えっちゃんの気持ちを考えることができることを押さえ、会話文だけでなく、地の文にも目を向けさせる。

○ 音読の工夫を「読み」としてワークシートに書かせる。その根拠となる言葉や文にサイドラインを引かせ、そこから分かる様子や気持ちを書き込ませる。

3 音読の工夫について話し合う。

○ まず、ペアで音読の工夫やその理由を交流させる。理由は、叙述を基にして述べることができるよう、サイドラインや書き込んだ内容を参考にさせる。

○ 次に、学級全体で音読の工夫やその理由を交流させる。その中で、えっちゃんの行動や様子に目を向けさせていき、えっちゃんの帽子に対する思いに気付かせる。

4 話し合ったことを基に、えっちゃんの気持ちを想像する。

○ ワークシートの吹き出しに、「う、め、だ、え、つ、こ。うふつ。ありがとう。」に続くえっちゃんの言葉を書かせる。

評価 帽子をもらったえっちゃんの気持ちを想像して、吹き出しに書いている。(イ1)

○ 書いた内容を発表させ、帽子を大事にしているえっちゃんの気持ちを押さえる。

5 本時を振り返り、次時の学習内容を知る。

○ 板書を参考にして場面全体を音読させ、ワークシートで自己評価をさせる。

○ 次時は、三の場面を学習することを知らせる。